JASE
現代性教育研究ジャーナル
MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2017年
No. 78
2017年9月15日（毎月15日）発行

日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 中山博邦
© JASE. 2017 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

「第21回関西性教育研修セミナー」報告 …… 1
性教育の現場を訪ねて⑥…… 10
Dr.上村茂仁の性の悩みクリニック⑱…… 12
多様な性のゆくえ⑥…… 13
今月のブックガイド…… 14
JASEインフォメーション …… 15

◉「第 21 回関西性教育研修セミナー」報告

肯定的で健康的な自尊感情とセクシュアリティを育む
フィンランドにおける性教育と家庭（親）支援

2017 年 7 月 8 日（土曜日）午後 3 時より、大阪・梅田ガクトホールで上記のテーマで第 21 回関西性教育研修セミナーが開催された。講師は、フィンランドの心理療法士（サイコ・セラピスト）でカップル／家族セラピーや性教育の専門家で Sexpo 財団でカウンセリング部長などを務めた Antti Ervasti（アンティ エルヴァスティ）氏。講演後、土肥いつき氏の司会で参加者との質疑応答も活発に行われた。
その講演概要と質疑応答を報告する。

主催：関西性教育研修セミナー実行委員会

生徒にリスペクトされる教師

フィンランドにおける性教育と家庭支援、肯定的で健康的な自尊感情とセクシュアリティを育むことの重要性について、お話をさせていただきます。

フィンランドは、北欧諸国の中でも唯一、２回にわたって全国調査、追跡調査が行われている国です。1996 年と 2006 年には、全国の性教育を担当している生物と保健教科の教員を対象とした追跡調査が実施されています。2000 年と 2006 年には、思春期の若者の性知識の程度をはかるという試みとして、全国調査が実施されています。教員対象の全国調査では、1996 年に 421 校、2006 年には 518 校を網羅しています。

思春期の若者の性知識のレベルをはかる調査では、

2000 年に 401 校、2006 年には 462 校、３万人を超える生徒の数を捕捉しています。2006 年は、同時に教師と生徒対象に行われて、同じ学校で教師と生徒の両方が協力した学校は 339 校に上ります。

教師を対象とした調査において、性教育の最も重要な教育的目的とは何、という質問に対して、「責任が

持てるようになる教育をすること、そして、正しい事実を提供することである」と回答しています。

フィンランドにおいて、若い男の子は、あまりオープンに性の発達について、また自分たちのメンタルヘルスについてもあまり話さないという傾向があります。逆に女子の場合は、感情や性の発達について、そしてメンタルヘルスについて話す傾向にあります。

生徒の性知識レベルに、肯定的な影響を与えていた教師の特徴というものを調べています。セクシュアリティに対する自然な態度と寛容さを教えたいと思っている教師です。例えば多様性について、ジェンダーについて、セクシュアリティについて寛容な態度を持っている教師は、生徒からもリスペクトされ、話をよく聞いてもらえるということがわかっています。

２つ目の特徴としては、性的話題について話をすることに抵抗感を現さない。自分自身の個人的な話をも生徒にすることができる、そんな教師像です。

パーソナルな話、個人的な話について、例えば私たち専門家は、専門家としての役割というものがありますので、あまり自分の個人的な話を開示するということはないというか、すべて開示するということはありません。けれども、いくつかのことについてはシェアをする気持ちがあるよということを示すことは大事だし、特に性教育にかかわる先生が自分自身がグローイングアップ、成長するときにどんな思いだったか、どんな経験だったかとか、あるいは個人的なことではなくても、一般的な話としてシェアすることが大事だ、ということがわかっています。

３番目は、ドラマやロール・プレイ、生徒による発表や生徒から話をするなど、生徒とのダイアログ、対話を持ちやすい手法を授業で取り入れている教師というものがリスペクトされ、影響力を与えやすいということがわかっています。それは、ただ単に情報を提供する権威者としているのではないところで、非常にリラックスした雰囲気の中で、生徒たちも先生と話しやすい、関係性を持ちやすい、親しみを持ちやすいということです。

北欧の包括的性教育

北欧で性教育といえば、包括的性教育のことを意味します。実施場所が学校であるかどうかにかかわらず、包括的教育、性教育というのは、セックス及びセクシュアリティについて、「権利概念」を基本としたアプローチであり、ジェンダーにフォーカスしたアプローチをとる、これが包括的性教育です。

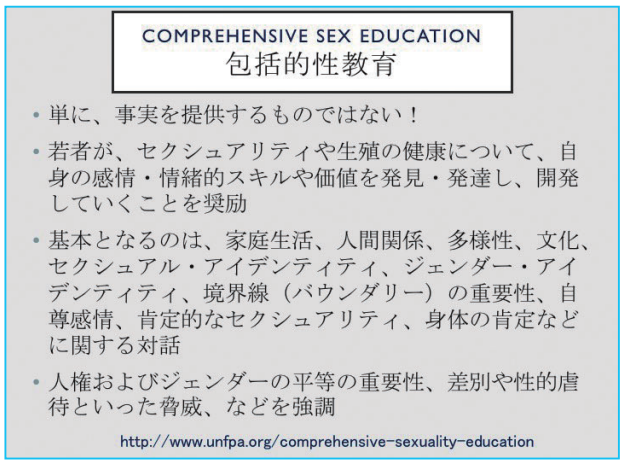
学校で行われるものであれ、家庭で行われる性教育であれ、幼稚園、大学、あるいは障害者施設などで行われる性教育というのは、年齢に応じた情報を提供していくプロセスです。

早期に開始され、生涯を通じて継続されていくべきもの、それが包括的性教育です。私たちは生まれてから生涯を終えるまで、いろいろと心が変化して、セクシュアリティがどうなっていくかわからないわけですから、これは継続的に行われるべきものなのです。

包括的性教育には人間発達に関する正確な情報、人間発達といった場合には、性の発達だけではなく、例えば性器だけでもなくメンタルな側面についても発達をどのようにするのかということが含まれてきます。

解剖学および生殖の健康、避妊に関する情報、出産、HIV を含む性感染症、セクシュアリティは異なるライフステージでそれぞれ変化するものであることから、一生涯を通じた性教育が必要となってきます。

包括的性教育で一番重要なのは次のことです。



包括的性教育というのは、単に事実を提供するものではありません。

「若者が」と書いてありますけれども、「成人」も含めてください。「セクシュアリティや生殖の健康について、自身の感情・情緒的スキルや価値を発見・発達し、開発していくということを奨励」するもの、これが包括的性教育です。

包括的性教育とは、対話です。基本になるのは、家庭生活、人間関係、多様性、文化、セクシュアル・ア

講演する Antti Ervasti 氏

イデンティティ、ジェンダー・アイデンティティ、バウンダリー（境界線）を引くということの重要性、自尊感情、肯定的なセクシュアリティ、身体の肯定などに関する対話が重要です。

バウンダリーを引く、私たちの体というものに対するイメージ、これは神聖なるもので、ほかの人にさわられたくないところをさわられた、そういうさわり方をされたということに対して、責任ある大人にそれを伝え、自分を守っていくということを教えることが大事です。このことは将来、自分自身の体を守るということだけではなくて、自分を守れるということによって、他者をも大切にすることにつながっていきます。

包括的性教育では、人権およびジェンダーの平等の重要性、差別や性的虐待といった脅威などについても、重点的に教えていきます。

次に、親やその他の保護者が担っていくということですけれども、フィンランドや北欧においても、パーフェクトではないのですが、北欧の親や保護者は、こういった問題について話しやすい環境にはあります。セックスやセクシュアリティ、感情や情緒、身体的発達について、オープンで正直であることが非常に大事になってきます。

オープンで正直であることの正直さというのは、例えば私が親だったとしましょう。子どもと対話をする中で、すごく苦手なことを話さなければいけない場面に立たされたとしたら、私は正直に、「私はこれについて話すのはちょっと苦手なんですよ、なので、ほかの親戚の誰々さん、あるいはほかの知っている大人の誰々さんに話してもらいましょう」というように、自分がこの話題が苦手だということを伝えます。これも正直さです。

親や保護者もまた、子どもに対して教育をする前に自身が性教育を受けておく必要があります。これは読み、書きやアルファベットを教えるということについてだって、皆さんの言語と私の言語は違うわけですけれども、共通して、子どもたちに教える場合には自分が知っていないと教えられないということはありますね。私たち大人というのは、パーフェクトではないけれども、学習することができます。

うれしいことに、現代というのは、さまざまにいい教材があって、例えばセックスについてどういうふうに話せばいいのか、ジェンダーの多様性についてどう話せばいいのか、家族の多様性ということについてどう触れればいいのか、ということについて、そうしたさまざまな教材、書籍、資料が出回っています。例えば２人親がいるとして、その２人の親が互いに自由に話すことができて、自分の感情やセクシュアリティを意識化したり、そういった話題について、センシティビティを高めるようになれること、これも大事です。

性教育というのを、バイオロジー（生物）の授業でやるということもよくあるんですけれども、私は生物の授業だけで性教育をやるというのにはちょっと反対です。というのは、そうしてしまうと、セックスというものが生殖に関する事柄に限られてしまうとか、あるいは体の変化とかセックス、そういう限られるものになってしまう。それよりは、健康教育というか、健康情報として性教育をやっていくと、もうちょっと多様な範囲を網羅することができるのではないかと思っています。

学校は、時間が限られているので、すべてを網羅することができません。「ユースセンター」と呼ばれる若者を対象としたコミュニティセンター、若者が集ってビリヤードなどをする青少年会館であるとか、NGO などの団体であるとか、虐待に関係する施設で性教育が行われています。私は、もっともっと広がるべきだと思っています。そういうところにプロの性教育者が配置される、そういう将来というのが必要だと思っています。

特に重要だと思っているのは、コミュニティセンタ

ー、地域の会館みたいなところに性教育を提供するプロが配置されているということが大事だと思います。特に若者の場合、非常にピースフルに個人を対象としたもの、あるいはグループを対象としたもの、いろいろなかたちで情報が提供される必要があります。集団で感情や情緒、スキルを身につけるためのグループワークをする機会であるとか、あるいはバウンダリー（境界線）を引くということがどういうことかに関するグループワークであるとか、コミュニティセンターを通じて提供されることがいいのではないかと思っています。

重要なメッセージ、“No hurry”

セラピーとかを実際の画面でやっているのですけれども、そこで出会ういろいろなケースがあります。お見せする絵とか会話、セリフですけれども、これはすべて実際にそういう状況があったエピソードに基づいてつくられています。

このメッセージその１といいますか、人間は誰しも成長の仕方というのは人それぞれなわけですね。性的、情緒的、感情的な発達というのは、常に個性あるプロセスを踏むもので、それを育む環境と、安全な愛着が必要です。それは、親である場合、保護者である場合もありますし、その人たちが提供できない場合は、その他の周囲の大人によって、安全で愛着のある環境というものを提供されなければなりません。

成長のしかたは、ひとそれぞれ。
性的・情緒的発達は、常に、
個性あるプロセスを踏むものであり、
それを育む環境と、安全な愛着が必要である。

急がなくていいよ

新米で、まだ未熟だもん

そこで重要なのは、“No hurry”、「急がなくてもいいよ」というメッセージを子どもたちに伝えてあげることです。

たとえば、友だちはみんなこんな経験をしている、あんな経験をしている、というようなことがあったとしても、「人は人、あなたはあなたでいいのよ、急がなくてもいいよ」というメッセージです。

子どもたちは好奇心いっぱいだというのは当たり前、自然な姿でしょう。体やセクシュアリティについて質問したり、探求できるように、安全な環境と、そして、羞恥心を持たせないようにすることが非常に大事になります。

「赤ちゃんはどこから来るの」というような話題、こういう基本的な情報を、正直に、オープンに、年齢に応じて、子どもたちと話し合うべきでしょう。

家族や愛の多様性について、子どもや若者と話をすることが大事です。家族の形というのは本当にいろいろあるんだよ、レインボーな家族、同性同士の親の家族、一人親の家族、親の１人がトランスジェンダーである家族などなど、いろんなかたちがあるんだよということを子どもたちや若者と話をします。

マスターベーションなど――性に関する重要な事柄の一つがマスターベーションなわけですけれども――これは当たり前のことで、恥ずかしいことじゃないよというメッセージを子どもや若者に伝えることが大事で、性に対する不必要な罪悪感や有害な羞恥心を持たせないようにすること。なぜならば、それを持ってしまえば、生涯にわたる影響があるかもしれないからです。

避妊や、セイファーセックス、より安全な、コンドームを使ったというようなセックスに関する事柄は、年齢に応じて話をすることが大事です。性の健康に対する責任を持つということを学ぶことが、自分だけではなく、他者をも守る、望まない妊娠や性感染症から守り、それぞれのセクシュアリティをそれぞれに楽しめるようにすることにつながります。

また、セクシュアリティというものがプライベートで、親密なものであること、それから、これは常に尊重されるべきものなんだよ、ということを子どもや若者に説明することが重要です。

健康的な自尊感情と安全な愛着関係を構築するという能力を育むために最重要なのは、安全で、安定した大人同士のネットワークがあることです。社会的な孤立や恐怖というのは、不安定さや不安を増幅させます。そのことが鬱であったり、社会を嫌悪する、反社会的な行動をとるようになるなど、多くの心理社会的な問

題につながることがあります。

子どもたちや若者というのは、誰もが感情や情緒のスキルを学ぶ必要があります。感情を意識すること、それから自己表現を身につけることが、本当の意味での強さになります。強さというのは、何も筋肉量ではないということです。

男子が感情を露わにすることに関するサポートが十分ではない。癒しのハグをしたりされたりすることは、ウェルビーイング（安寧）を向上させるものである。

癒しのハグをしたり、されることというのは、実はすごく大事で、ウェルビーイング（安寧）を向上させるということがいろいろな研究で言われています。“Man enough to cuddle！”という英語がありますけれども――“cuddle”というのは抱擁です、ハグとか――ハグするほど私たちは男らしいよ、というようなメッセージの出し方というものが必要とされているのではないか、というのでこういう絵になっています。

性的ではないタッチ、触れ合う、ハグについて、もっと教えていく必要があるということです。

すべての子どもや若者は、自分がかけがえのない存在であること、自分の価値が身体の大きさやカタチで決まるものではないことを学ぶ必要があります。

子どもたちは、自分はだめだ、魅力が足りないと思ったときに落ち込むわけですけれども、私たちみんなにあるんだよ、ということを教え、学んでもらう必要があります。そういう感情というのは持つことはあるけれども、過ぎ去るものだよ、その感情も持つこと自体は当たり前、でも、いつか過ぎ去るものだ、ということを覚えておいてね、ということを教えることです。誰もパーフェクトな人なんていないんだよ、ということを含めてです。

私のセックス・セラピーにくる男性の一番多い悩み、一つはペニスのサイズです。もう一つは、勃起機能障害です。多くは、身体的には機能障害がないにもかかわらず、心理的な面、心因的な問題です。私のところに来るまでに、「ペニスのサイズなんて関係ないんだよ」、あるいは、「それで悩んでいるんだ」というようなことを十分に話す機会がなかった、というようなことが顕著にみられます。

愛にはたくさんのカタチがあること、モダン（今どきの）ファミリーは多様で、愛は多様である。
このことを子どもや若者と対話すべし。

子どもたちと話すべきこと、愛にはたくさんのカタチがあるということ、モダン（今どきの）ファミリーは多様で、愛も多様だということです。

子どもたち自身が健康的な自尊感情と自信を持つようになると、他人をよりリスペクトすることにつながります。差別やヘイトなどの多くがどこに根差しているかといったら、非常に低い貧しい自尊感情からきているというのはよくあることです。

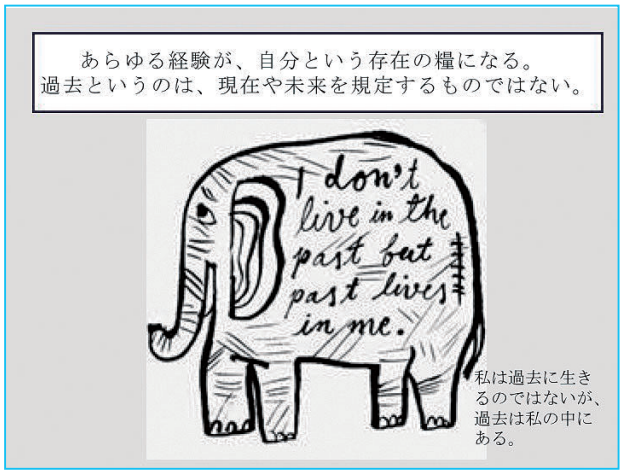
親同士の関係は子どもに影響する。親（の存在や関係性）は、子どもにとっての安全地帯（SAVE HAVEN）であって、苦痛や不安、恐怖の種になるべきではない。

子どもにとって、自分の親同士の関係というものは非常に大きな影響を与えます。親の存在や関係というのは、子どもにとって“安全地帯（Safe heaven）”であるべきであって、苦痛や不安、恐怖の種になるべきではないわけです。ホーム、家庭というものが安心、安全な場であるということが将来の性的な関係という

ことにも、セクシュアリティにも影響を及ぼすことがあります。

子どもにとって、自分がそういった人間関係を築く前、性的な関係を持つ前に、親というものが一番最初のロールモデルになるわけですから、そこでヘルシーな関係性が持たれているか、オープンな関係性か、それともいろいろないがみ合いというか、話し合いというものが前向きなものなのかどうかみたいなことも含めて、子どもはずうっと見ているわけです。

子どもや若者、大人もまた、慰めや他者との親しさを必要とします。ハグを必要とします。このことを教えることは、子どもや若者に貴重なリソースを提供することになります。ここには、「話すのに疲れちゃった。ハグしよう」と書いてありますけれども、私自身も、たくさんのクライアント、患者を診て帰ってきたときには、疲れ過ぎて話すエネルギーがない、ただただハグされたいだけ、というようなことがあります。「そういうことは大人にもあるよ、それでいいんだよ」ということを若者に語っていくことが大事なのではないかと思います。



最後になりますが、あらゆる経験というものが私たちを形成していき、「私」、「自分」という存在の糧になっていきます。トラウマ、虐待、暴力などの否定的な経験もそうですし、そして非常にポジティブな、肯定的な経験もそうです。それは私たちの中に生き続けるわけなんですけれども、しかし、過去というものが現在や未来を決定し、そこで終わってしまうわけではないということです。

私のクライアントの人たちで、例えばトラウマ関係といったら、性的な虐待を受けてきた、強姦された経験がある、近親姦の経験があるというような人たちがいます。そういう人たちのセラピーを通じて伝えることというのは、そういう経験があったからといって、犠牲者でい続ける必要はないということです。犠牲者ではない、あなたはあなたの人生の主人公になれるんだということです。

（イラストは、マッティ・ピックヤムサ氏）

質疑応答

土肥　私のほうから、お話を聞いた感想とか、私が思った質問などをしたいと思います。

皆さんも、多分似たような感じではないかと思うんですけれども、とにかく前半部と後半部と２つに分かれていて、前半を聞きながら、もう日本で生きているのが嫌だと思うぐらいに絶望的な気持ちになりますよね。何とフィンランドは進んでいて、何と日本は遅れているかということが本当に伝わってきて、嫌になってきたんですね。

でも、後半を聞いて、一緒やん、現実は、と。だから、多分日本もフィンランドもとてもしんどい状況というのはあると思うんですね。その状況に対して、どういうふうにしていこうかというときに、フィンランドは包括的な性教育という方向へ舵を切ったのではないかなという気がしました。

いくつかキーワードがあったかなと思います。１つは、セーフティ、それからリスペクト、それからセルフ・エスティーム（自尊感情：self-esteem）、この３つが繰り返し繰り返しスライドに出てきたかなという気がします。

日本では、セーフティ、リスペクトとかセルフ・エスティームというのは――私はもともとは性教育畑ではなくて、人権教育の畑の人間なんです。在日コリアン、あるいは在日外国人教育、それから部落解放教育がもともとの私のフィールドなんです。そこの中で、人権教育の中でこの３つのキーワードはずうっと言われていたことが、フィンランドでは包括的な性教育のところで言われているということで、性教育と人権教育は本当につながっているということを深く感じました。

それから、もう一つ、メッセージとして伝わってきたのが、大人は完成した人間ではないということです。学校の教員も完成した人間ではない。完成した人間で

はないから、自分たちはまだまだ学び続ける存在であるからこそ、生徒たちからリスペクトされる、多分そういうふうな存在であろうとしているのかなという気がしたんですね。

日本では、オーソライズしようと思ったときに、私は完全な人間だという形でオーソライズしようとするんだけれども、恐らくフィンランドではそうではない。「完全じゃないよ」で対応することでリスペクトされる、そんなことを感じました。

ちょっと手前味噌の話をしますけれども、私は数学の教員です。ですから、性教育とはまったく無関係のところにいるわけです。

ただ、私は試験前に授業の時間を少し余らせて、グループ学習をします。高校なんですけれども、私は、例えばこの間で言うと、全員が30点以上を取るようにしようという目標を立てました。そうすると、10点とか20点の子が頑張らないといけないとみんな思ってしまうんですけれども、ではなくて、80点とか90点の点数の子が、君たちが数学を解くスキルを独り占めするな、それをシェアしようというかたちで学びや学習をするんです。でも、子どもたちは友だちだから、雑談します。で、私に、「先生、先生、この子な、また新しい彼氏とつき合うて2週間目」とかいう話をするんですね。そうすると、私は、「オーケー、じゃ、セックスするときはコンドームを使え」とそこで性教育をします。セーファーセックス。

そういった意味では、人権教育もそうなんですけれども、「いつでも、どこでもできる」というのが私の基本ですけれども、包括的な性教育というのは、そういうテイストがあるのかなという気がしました。

かつて、包括的な性教育の前に、フィンランドもそうではない時代があったのではないか。その時代はどんな性教育をしていたのかが一つです。それから、なぜ今のように変えていこうというふうになったのか。それを聞くことが、私たちが日本の性教育をこれからどう変えていくかということを考えるためのヒントになるかなと思うんですね。

アンティ　私たちが小さかったころというのは、セックスというのはリスキーなものというような視点で語られることが多かったかと思います。セックスが語られるときには、どこか怖いものだったり、心配しなければいけないものが強調され、ポジティブな面というものがあまり語られなかったのが昔の性教育ではないかと思います。

今、包括的性教育がなされているからといって、決してそれはパーフェクトなものではありません。どこでも、誰でも、包括的性教育ができているかというと、決してそうではないんですけれども、しかし、その教育に携わっている人たちが頑張って目指している目標というものはそこにあります。

私は歴史について語るのに、専門家ではありませんけれども、フィンランドにおいては、性教育だけではなく、学習スタイルすべて、学習の制度全てが変わってきた。ただ、事実だとか情報を与えるということだけではなくて、子ども時代に対話も大切だし、より成長を遂げていく成人期になるに従って、ダイアログ（対話）というものが大事になってきます。

私たち大人というのは、あるいはプロフェッショナルでも、決してパーフェクトな存在ではありません。私は、自分はプロだけれども、専門家だけれども、何もかんでも知っているよというふりだけはしないように、と心がけています。クライアントの人たちと対話、セクシュアリティについて対話するときにも、それぞれの個人には、それぞれのかけがえのないセクシュアリティというものがあるのであり、個性があるということです。どう生きるべきなのか、どういうセクシュアリティを生きるべきなのかなどという答えを私が持っているはずがなく、そこで対話をしながらお互いに探っていくということが大事です。

私自身も、今まで生きてきてそうでしたけれども、皆さんも、ほかの先生たちも、与えるだけではなくて、与え、与えられという関係性を通じてそれぞれに学んでいくところがあるんだろうと思っています。

いろいろなものがフィンランドでも変わってきまし

たし、いろいろなものが発達してきて、一夜にして今の状況があるわけではなく、メンタルヘルスについての知識であるとか、対応について大きな変化がありましたし、そういうものが性教育に与える影響というのもあるし、昔は、もっと狭いファクトベースな、事実に基づいてみたいなことがやたらと言われていたんですけれども、正しい知識というよりは、accurate information、より正確な情報を共有していくということが大事なんだというのは、過去からの教訓でもあるんです。

フィンランドと日本の専門家という違いがあるとすれば、フィンランドにおいては、サイコ・セラピストであるとか、メンタルヘルスにかかわる専門家として開業したり仕事をするためには、非常に長い期間の研修、訓練を受けて、有資格者にならないと名乗れない、実践できないという状況の違いがあります。

私は、サイコ・セラピストというふうに自己紹介するけれども、このサイコ・セラピストという肩書を取るためには長い年数を要します。

では、性教育はどうなのと言ったら、性教育には、それだけの長い研修とか有資格というのがないんだけれども、でも、そういうのもあるべきだと思います。

土肥　もう一つだけ、「与え、与えられる」という話で、ああ、そうだなと思ったのが、私は数学の授業をするときに、多分、数学を教えるということを一番よく知っているのは、数学が苦手な生徒やろうなと。つまり、何がわからないかということを一番はっきりさせてくれる子が数学が苦手な子なので、数学な苦手な子からわからないことを教えてもらうことで私は数学ができるようになる、そんなことを思ったりしました。

それをしようとしますと、もう一つキーワードが出てきまして、ダイアログです。子どもが話をしてくれないと教えられないという意味では、ダイアログというのはすごく大事ですね。

「ｐ４ｃ」というのがありまして、“Philosophy for Children：ｐ４ｃ”、ハワイ大学のドクターＪという人がやっていることなんですけれども、子どもたちのための哲学です。子どもたちが対話を通して物事について考え、物事を深めていく。

そのダイアログを支えるものは、やはりセーフティ、ここでは何を言っても大丈夫という、その安心・安全がないとダイアログは成立しないんですね。フィンランドでは、セーフティというものをどういうふうにつくっているのかというのが、もう少し知りたいです。

アンティ　どのように子どもたちが話しやすい安全な場をつくりますかということなんですけれども、性やセクシュアリティについて話をするときに重要なのは、セーフティ、安心・安全であり、ノンシェーミング、恥ずかしいという思いをしなくても済むという環境がものすごく大事です。誰をも発言者を辱めない雰囲気づくりというのに気を配ります。

そのときに、例えばグループ、集団で性教育することが多いわけですけれども、小さなサイズにとどめておくということが非常に大事。現在みたいにこれだけ多くの人たちが一方方向を向いているスクールスタイル、こういうかたちだと、どなたも自分の親密な個人的な話をしようとは思わないと思うんですね。

土肥　どなたかご意見とか質問とかありましたら。

会場　LGBT 当事者です。

フィンランドの教育システムについて、少し確認させていただきたいんですけれども、障害児、視覚障害とか聴覚障害とか、肢体障害であるとか、特別ニーズを持つ子どもたちの学校というのは、メインストリームなのか、別なのか。特別ニーズを持った子たちが集まっている学校があるのか。両方が合わさって、一緒にやっているのか。

障害を持つ子どもたちに対しての性教育、普通の子どもたちとは違って、何か違ったアプローチというものがあるのかどうか、ご経験をお聞きしたいと思うんですが。

アンティ　「スペシャルニーズを持つ」という言葉を使われたので、どんなスペシャルニーズによるかによっては、例えば病院の中に病児教育という形で教育が行われることはあります。しかし、それ以外の場合、視覚障害であれ、聴覚障害であれ、ほかの子たちと同じ環境で教育をするというところに力点が置かれています。

なぜならば、その子たちだけ別の学校に行かせるということは、グッドサインにならない。いいサインにならないからです。何かネガティブなイメージを与えてしまう。そうではなくて、みんなと一緒に学校に通うんだけれども、特別なニーズがある場合には、特別なアシスタントを学校側が提供する、それがフィンラ

ンドです。

考え方としては、性教育というのは誰もが受けるもの、同じように誰もに提供されるもの、これが基本です

会場　児童養護施設に関する性暴力について研究しています。加害児、被害児について、どんな特別な支援をしているのでしょうか。

アンティ　親元を離れて入所している子どもたち、特にそういう経験をしている子どもたちというのは、トラウマに関する特別なニーズがありますから、そういうものを手当てすることが必要であり、将来的なアタッチメント、いろんな人との愛着関係を構築するのに影響するわけですから、そういう施設で働く、あるいはフォスターペアレンツ――フォスターペアレンツというのは養父母――になる人たちというのが、トラウマに関する性暴力、トラウマに関する基本的な知識を持っていることというのが非常に大事になってくると思います。

一番大事なのは、そういう子どもたちが安心して語ることができるということです。子どもたちが語らなければ、私たちは情報を得ることもできず、ホリスティック（包括的、全方向的）なケアというものができなくなってしまう。

逆に言えば、そういうことができれば、かなりしんどい思いをした過去があったとしても、その子たちは犠牲者として生涯を生きていくのではなく、自分の人生の主人公となって生きていくことができるわけです。

フィンランドと日本の文化の違いがあるのかなと思うのは、自分の感情について、情緒面についての子どもたちとのコミュニケーションの仕方が、日本の親とはちょっと違うのかもしれない。だから、知らないことを「知らない」と言えるとか、「それは私にはちょっとわからないわ、待ってね」みたいなことが言えるかどうかという、ベーシックなところがちょっと違うのかもしれない。

自分に答えられないなという質問を受けて困っちゃったなというとき、フィンランドの親が頼ることができるのは、本であるとか、絵本であるとか、あるいはさまざまなＮＧＯとか草の根の団体であるとか、そういうところ、それからプリスクール、幼稚園であるとか保育園であるとか、デイケアセンターとかでの会話をすることによって情報を得たり、どうやって答えたらいいかのヒントを得たりすることができるかと思います。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日 10：30 ～ 17：30
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計･調査報告書、ジェンダー･フェミニズム、性教育一般･性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書･指導書･学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料･海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi

［大阪府立刀根山支援学校　大阪精神医療センター分教室］（下）

試行錯誤を経て 現在の実践スタイルに行きついた

前号では、心にケアが必要な子どもたちの分教室で実践している楽しい性教育の授業内容を紹介した。創意工夫あふれる現在の授業スタイルに行きつくまでは、さまざまな試行錯誤があったという。今号はここに至るまでの経緯を紹介しよう。

生活の中で根づいてほしい性教育の言葉

船木雄太郎養護教諭が、この分教室に転任したのは２年前のこと。その前の知的障害児の高等支援学校でも性教育を実践していたので、ここでもぜひ実践したいと積極的に病院側に働きかけて、分教室での性教育がスタートしたという。

性教育の授業というと、教えるほうも大上段に構えがちだが、船木教諭は「取り立てて性教育をやるというよりは、ここで学んだことを日々の生活の中で子どもたちに使ってほしい」と語る。

たとえば「境界線」は、船木教諭の性教育の実践の中でひんぱんに出てくる言葉。

「これ誰のものかな？　ものには見えないけれど境界線がある。人からものを借りるときにはきちんと相手に聞く。相手がいいよといったらありがとうって借りる。でも言い方まちがって『貸せ！』といったら、けんかになるよ。人との境界線もあるよね」と子どもたちに問いかける。

「他人とのほどよい距離は、腕の長さ分だといわれている。これを子どもたちに覚えてほしいから、振付つきの『境界線音頭』という歌をつくりました」と船木教諭。境界線音頭の振付には、盆踊りと同じように、腕を水平に伸ばす所作がある。

ベタベタッと体を近づけてくる子どもに、『離れなさい』とか『距離近いよ』といえば、どうしても怒り口調になってしまう。こんなとき、船木教諭は、すかさず子どもの後ろにまわって『♪あなたとわたしのきょうかいせん』と腕を前に伸ばしながら境界線音頭を踊ってあげるそうだ。すると子どもは「先生、なんや～」と笑いながら自然に離れていくという。

大阪府立刀根山支援学校　校長・栗山和幸
大阪精神医療センター分教室
生徒数　小学生約 15 名、中学生約 15 名
（入退院の時期により人数は変動する）
職員数 16 名　（2017 年 7 月 1 日現在）

境界線音頭（きょうかいせんおんど）♪

きょうかいせん　【右うでを横にのばす】
きょうかいせん　【左うでを横にのばす】
きょうかいせん　【両うでをのばして
体を右まわりに回転】
きょうかいせん　【両うでをのばして
体を左まわりに回転】
あなたとわたしの　きょうかいせん♪

船木養護教諭自作の境界線音頭【　】内が振付

「いや」を伝える「おしまいルール」

もうひとつ。「いや」という気持ちを上手に伝える方法として「おしまいルール」をつくった。

手話で「おしまい」は、上に向けた両手のひらを下におろしながら手をすぼめて、閉じるようなイメージの表現をする。このことを性教育の授業の中で、子どもたちに紹介する。子どもたちがたとえば「どこに住んでいるのか、年齢はいくつか」など心理的境界線を越えてしつこく聞いてきたり、体にベタベタさわってくるようなときは、手話を交えて「『はい、おしまい』

と伝える」。すると、子どもたちは「ああ『おし、まい』か」、と納得する。

こんな方法なら自分も相手もいやなことは気持ちよく「おしまい」にできそうだ。

性暴力は連鎖する

他の支援学校への出張授業や保護者対象の講演会、施設での研修講師等、さまざまな形で性教育を実践している船木教諭だが、もともとは知的障害児の性問題行動に対してどうアプローチするかというところからはじまったのだという。

「前の赴任先だった知的障害児の高等支援学校では、警察にお世話になったり、教員に暴力をふるったり、……当初はそんな問題行動を起こす生徒たちがいました。その生徒たちを呼んで、『そんなことやったらあかんやろ』というだけでは、いろいろな事象が止まらなかった。この子たちは何があるんだろうと悩みました」

そのとき、相談にいったのが、当時は大阪教育大学（現在大阪大学大学院）の野坂祐子准教授だった。野坂准教授から「起きた事象にとらわれず、その子の背景や表現の部分をきちっととらえてみては」とのアドバイスを受けて、子どもたちとのかかわり方を変えてみようと思ったという。

「教員同士、役割分担を決めてチームで生徒指導を行いました。ダメなものはダメというけれど、僕は生徒の気持ちを聴く係りになろうと。そうして最初の性教育は、歯磨きの指導――気持ちいいね、すっきりするね、という感覚を覚えるところからはじめました」

心が通いあえたと思っても生徒たちは問題行動を繰り返す。それでも、船木教諭はあきらめなかった。起きた問題に対しては、なぜそういうことをしてしまったのか。どんな思いだったのか――保護者から話を聞いたり、必要であれば現場検証もして、子どもの話を聞き取っていったという。

「すると、その子もいじめられていたり、性暴力の被害にあっていたりする。子どもたちの話をじっくり聞きながら接していくと、ゆっくりゆっくりですが子どもは確実に変わっていきます」

性暴力は連鎖することもそのときに学んだという。

「誰かから性暴力を受けると、その傷を癒すために『そんなことはたいしたことじゃなかったのだ』と自分の気持ちをすり替えてしまう。すると、今度は自分が加害者になって再現化してしまうのです。性暴力の連鎖は、ここでなんとか止めてあげなくては……性教育への思いはそこからはじまりました」

性教育も保健指導も、必ず気持ちの学習を組み込むようにしている（プライベートパーツ・境界線の講義から抜粋）

気持ちの表現が増えると、イキイキしてくる

性教育でも保健指導でも、船木教諭は必ず気持ちの学習を組み込むようにしている。

「たとえば子どもたちと鬼ごっこをして遊んだときも『追いかけられたどうやった？』と必ず子どもたちに気持ちを聞くんです。すると『こわかったわ～』とか、『ドキドキしたわ』と答えが返ってくるんですね。快・不快だけではなくて、いろいろな気持ちの表現があることを教えて、語彙を増やしてあげたい。気持ちの表現力がついてくると、いろいろなことに興味がわいてくる。子どもたちの成長に、大きな手ごたえを感じています。問題は、ここでできても退院後も友達とちゃんとコミュニケーションがとれるのか、環境になじめるのか、また　家庭でも生活が安定して親きょうだいに自分の気持ちをきちんと伝えられるのか――そのためにどういう支援が必要なのか、これが今後の課題です」

ギターが趣味の船木教諭は、自分の得意技を最大限に生かして、歌を取り入れた性教育や保健指導を実践する。「僕がギターを弾いて真剣に歌うと、僕も照れるけど、子どもはびっくりしてもっと照れる」そうなのだ。「大人が本気で何かをするところを子どもたちに見せるのは必要ですね」――船木教諭の話を聞きながら「ギターをしょって教材かかえて」これからも性教育の活動の場を広げてほしいと思った。

（取材・文　中出三重／エム・シー・プレス）

LINEでつながる
Dr.上村茂仁の（ドクター）性の悩みクリニック

かみむら しげひと
ウィメンズクリニック・かみむら院長（岡山県岡山市）、医学博士

連載第18回 ▸▸▸小さいペニスでも彼女はできますか？

僕は自分のペニスに自信がありません。
なんかほかの子より小さいのではないかと思っています。もともと世界と比較して日本人は短いと言われているのに日本人の中で小さいとなると、とても世界へ出て恋愛できるような気がしません。
実際に日本人のペニスは、世界から見てどうなのでしょうか。また小さいペニスでも彼女はできるのでしょうか。

男子のメール相談でいつも一番はペニスについての相談です。長さや太さ、硬さはどれが一番なのか、自分のペニスは標準なのかなどの質問です。男子としてはやはり一番気になる問題です。

NASAでも宇宙飛行士は尿をするときに宇宙空間で吸い取るようになるので男性はペニスのサイズに合わせた誘引カップを使うのだそうですが、宇宙飛行士ですら見栄を張って自分より大きいサイズのものを注文するそうです。それだけ大人も子供も大きさに関してとても気になるものです。

私の友人にAV男優がいます。彼とはそれまでは普通に話せていたのですが、彼の出演するビデオを見てその大きさを知ったときその瞬間から敬語を使うようになってしまいました。男子にとっての優劣はこれで決まると言っても過言ではありません。さて日本人のペニスの長さは世界の中ではどの位置にあるのでしょうか。GIGAZINEの記事にペニスの世界マップというのがあります。その中の代表的なデータを表にしました。これを見ると確かにコンゴ人と比較するとどうしようもないのですが、世界平均から見ても長さは1センチ短いだけでそんなに遜色ありません。太さに関してはほぼ同等です。そんなに差はないのです。

世界のペニスの平均値・勃起時（cm）

	長さ	周囲
日本	12.6	11.5
韓国	10.8	11.86
北朝鮮	9.6	11.3
中国	12.9	11.1
ドイツ	14.5	12.4
インド	13.1	11.5
ロシア	13.2	12.8
フランス	14.5	13.6
アメリカ	14.2	12.2
コンゴ	17.93	12.98
平均	13.91	12.14

以前、20代女性50人に男性性器で重視することは何かとアンケートで聞いたことがあります。ほとんどの回答は長さではなく硬さに対してこだわる傾向にありました。また清潔感というものも多く、包茎ではないとかアンダーヘアがきちんと処理されているかがポイントであるという回答も少なくありませんでした。

ということはまずは硬さを求めるということになります。幸いことに日本人は海外の人と比べて硬さには定評があります。

陰茎は海綿体と血液でできているので血流量が問題になります。血流量を増やすために恥骨尾骨筋のトレーニングがあります。

文献的にはこの筋肉を鍛えることで、①体内に埋もれているペニスを外へ押し出す、②大量の血液をペニスの海綿体へ送ることができるようになる、③ペニスから戻る血液の量が少なくなりペニスの硬さが増すようです（実際はわかりません）。

またアンダーヘアを整えることで、「陰茎が大きく見える」「水着やパンツからはみ出さない」「陰茎に毛が絡まない、引っ張られない」「SEXのとき快感が増す」「清潔になるので女性に喜ばれる」「ペニスが長く見える」などの利点があるようです。いまや男性もアンダーヘアに手入れをしないとモテない時代なのです。

しかしながら、硬さよりももっと重視されるものがあると多数の女性が書いていました。それは愛情があるかどうかだそうです。好きな彼なら最終的には長さも硬さも気にならないと書いている女性が多くみられました。優しく愛情を持って時間をかけてゆったりと愛を育みましょう。

昔から言いますね、「持ち物より持ち主」だって。

多様な性のゆくえ

One side／No side［6］

宮田 一雄
みやた　かずお
ジャーナリスト。公益財団法人エイズ予防財団理事、特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議事務局長。

性的マイノリティとトイレ

英語の「ステークホルダー」は企業などの利害関係者を指すそうだが、文脈から判断すると利害を取り払い、大きく「関係者」と訳した方がいい場合もある。その意味で、トイレほどそのステークホルダーが多い場所はちょっとないのではないか。

梅雨明け前から恐るべき炎暑に襲われた７月９日（日）午後、JR 田町駅前の東京・港区立男女平等参画センター・リーブラホールで『性的マイノリティとトイレフォーラム～安心快適のトイレ環境を目指して～』が開かれた。３時間半という長丁場のフォーラムで多様な論者の報告を聞き、改めてそう感じた。

そもそもトイレを使わない人はいない（と思う）。フォーラムを主催した虹色ダイバーシティは「LGBT が働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくり」を目指す特定非営利活動法人であり、企業から様々な相談も受ける。冒頭で司会者が「企業からの問合せにはトイレに関するものが多い」と開催の趣旨を説明した。

たとえば「トランスジェンダーの職員から自分の性別と異なるトイレに入りたいと要望を受けた」「トイレの表示を変えたいがどうしたらいいか」……。

フォーラムは Session1「性的マイノリティとトイレ」、Session2「日本のトイレの歴史」、Session3「事例から見るトイレの未来」の三部構成だった。

最近は「LGBT」が性的マイノリティの総称として使われることがよくあるが、このうちＬ（レズビアン）、G（ゲイ）、B（バイセクシャル）は性的指向（Sexual Orientation）に関する分類であり、T（トランスジェンダー）は性自認（Gender Identity）に関わっている。また、LGBT では総称しきれない性的指向や性自認を持つ人もいる。したがって、性的マイノリティは、SOGI（性的指向と性自認）に関するマイノリティとしてとらえる観点が必要になる。

フォーラムはそうした総論的な話からトイレ論に入っていった。トイレの悩みは性的指向よりも、性自認により深くかかわっているようだ。虹色ダイバーシティの調査では、トランスジェンダーの人たちには排泄障害で苦しむ人の割合が高い。学校や職場でトイレに行けず、結果として我慢を強いられるからだという。

性別で社会の仕組みを截然と分ける。それが当然と思っている限り、こうした苦しみは分からない。

そうか、その分からないでいることが苦しみを強いる。トイレのステークホルダーとして自らを振り返り、誰にも気づかれないように反省しつつ報告を聞く。

解決策として、車いす対応トイレの名称を「だれでもトイレ」と改め、性的マイノリティや赤ちゃんを連れたお父さん、お母さんでも使えるようにしている公共機関や企業もある。

だが、そのことが逆に新たな問題を生み出してもいるという。他の利用者が増えるので、車いすの利用者は結果として長く待たされる。逆にトランスジェンダーの人たちは、車いすの利用者を待たせることが心苦しく、利用をためらってしまう。

そうかといって２メートル四方の車いす対応トイレを「だれでもトイレ」として増やすにはスペースや予算の制約がある。すぐには対応できない。

トイレを男女兼用にすれば問題は解決するという意見もあるが、女性からは「おじさんの入ったトイレを一緒に使うのはいや」という反発も出てくる。身から出た錆かもしれないが、おじさん当事者としてはやや切ない。「小便器がない家庭で育った若い層が増えているので、男子トイレの小便器はだんだんなくなっていくだろう」というトイレ研究者の指摘もあった。

トイレメーカーからは、入り口やスペースの改善も含め、だれもが安心して使えるトイレを目指し様々な研究開発が進められていることも報告された。ビジネスの力を生かした環境整備はもちろん大切だ。

ただし、多様なステークホルダーの利害を調整しつつ現実的な解を生み出すには、ハード面の対応だけで十分とはいえない。少数の人たちが抱える困難を克服していくには、社会および個人が意識の持ち方を変えていくこともより大切になる。月並みなようだが、それが説得力をもって伝わるフォーラムでもあった。

BOOK GUIDE
今月のブックガイド

男が痴漢になる理由

斉藤章佳著
イースト・プレス
定価 1400 円＋税

痴漢撲滅を目指して

初めて痴漢に遭ったのは小学生の頃、本屋でだった。何年生だったかはもう覚えていないが、痴漢をされている！と気づいたときの「はっ！」とした気持ち、恐怖ははっきりと覚えている。

電車通勤していた 20 代前半は数え切れないくらい痴漢に遭った。3 人の男に囲まれて痴漢されたこともある。痴漢に慣れることは決してなかったが、徐々に恐怖よりも怒りが湧いてきて、何とか捕まえようとするのだが、成功したことは一度もない。犯人が真後ろにいる男なのか斜め後ろにいる男なのかよくわからない場合もあるし、こちらの捕縛の意志を感じ取ると手を引っ込められたり、駅に着いてドアが開いた途端、ホームに突き飛ばされて逃げられたりもした。

痴漢が腹立たしいのは、痴漢する犯人そのものが許せないのに加えて、痴漢被害に遭って嫌な気持ちでいることを身近な人に訴えても、あまり共感してもらえない点だ。これは人によるだろうけれど、少なくとも私は上手く気持ちに寄り添って慰めてもらったという記憶はない。私が当時の彼氏（それぞれ別人）にかけられた 2 大ひどかった言葉は、「俺だって触りたいんだから痴漢の気持ちもわかる」、「俺が触るより先に触られて残念だ」です。

そこまで人でなしでない男性であっても、男性と痴漢の話をするのは難しい。「痴漢より痴漢冤罪の方が問題じゃない？」などと、すぐに話をすり替えられてしまう。痴漢と痴漢冤罪はそもそも別の問題だが、もし痴漢を撲滅できたら痴漢冤罪も起こらないのだから、痴漢をなくす方法を考えた方が建設的なのではないかと思うが、男性にはよく理解できないようだ。痴漢をしない男性にとっては、毎日どれほどの痴漢被害が発生しているかリアルに想像できないのだろうか。

なぜ男性に痴漢の話が通じないのか。本書にはその理由がズバリ書かれていた。「すべての男性には加害者性が潜在している」。それは「痴漢をしたい」願望というよりは、許されるなら「女性の身体に接触したい」といった願望とのことだが、その延長線上に痴漢行為があり、自分の中に当事者性を見出してしまう男性にとっては恐怖でしかなく、痴漢問題から目をそむけつづける原因となる。

筆者の斉藤章佳氏は、精神保健福祉士・社会福祉士として、東京・大田区にある「大森榎本クリニック」で依存症の治療に携わっている。アルコール、薬物、ギャンブル、摂食障害、万引き等の各種依存症と同じく、痴漢を含む常習化した性的逸脱行為の裏には「性依存症」の問題があり、治療によって再犯を防止することができるのだという。

本書では、クリニックでの経験や様々なデータを用いながら、あらゆる角度から痴漢を解説している。人々がイメージする「痴漢像」の多くが誤解であること、多くの痴漢が共通して持っている「認知の歪み」は社会全体に蔓延している男尊女卑的概念と補完し合っていることなど、「痴漢の実態」をぜひ多くの人に知ってほしい。なぜなら、痴漢撲滅のためには社会も変わらなければならないからだ。

最終章では痴漢撲滅のための具体策も提案されている。バスの降車ボタンのように“痴漢通報ボタン”を設置し被害者に負担なく通報しやすいシステムを作る。「痴漢は犯罪です」ではなく「痴漢は依存症です」「治療で止められます」というメッセージを車内ポスターや車内放送で届ける。など、鉄道各社や警察が本気でやろうと思えばすぐに実行できる内容ばかりだ。

女性専用車両のような緊急避難的対策では痴漢問題の根本的解決にはならない。関係機関には専門家からの提案を重く受け止めていただきたい。

（日本性科学連合事務局長　今福貴子）

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、
Fax03-5800-0478でお寄せください。
〒112-0002　文京区小石川2-3-23春日尚学ビル B1
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

10/14（土）
13：00〜17：00

第18回日本性科学連合（JFS）性科学セミナー

これからのオチンチンの話をしよう

ー 男性のセクシュアリティへの理解と支援 ー

内　容

「性感染症予防のためのコンドームの語り方」
日本性感染症学会・岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター／厚木市立病院泌尿器科）
「包皮をむきっぱなしにする〜世界から見た日本の奇習」
日本性教育協会・小貫大輔（東海大学教養学部国際学科）
「電話相談からみるオチンチンの悩み」日本家族計画協会・北村邦夫（日本家族計画協会）
「割礼・小児包茎手術は性的虐待か」日本思春期学会・今井　伸（聖隷浜松病院泌尿器科）
「男性のライフサイクルにおけるオチンチンのトラブル」
日本性機能学会・内田洋介（公益財団法人慈愛会いづろ今村病院泌尿器科）
「女性泌尿器科医による男性生殖器の解剖と男性性機能」
日本性科学会・奥村敬子（公立陶生病院泌尿器科）
「男性不妊について」（仮）性の健康医学財団・寺田央巳（寺田クリニック豊橋）

会　場

大阪府立大学 I-site なんば
（大阪市浪速区敷津東２丁目１番 41 号　南海なんば第１ビル）

参加費・問い合わせ先等

参加費／3,000 円（学生 1,000 円）、性科学セミナー＋日本性科学会学術集会（14 日・15 日両日参加）7,000 円（早割 6,000 円・学生 2,000 円）、性科学セミナー＋日本性科学会学術集会合同懇親会（14 日 17：30 〜）3,500 円
問合せ先／日本性科学連合（JFS）事務局（〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-2-3-4F 日本性科学会内）
TEL：080-1242-5025　FAX：03-3396-8226　E-mail：info@jfs1996.jp　URL：http://www.jfs1996.jp
※翌15日（日）は同会場にて第37回日本性科学会学術集会「セクシュアリティと教育・福祉・医療の交錯」が開催されます。

10 月 22 日（日）13：00 〜 17：00

第22 回　関西性教育研修セミナー（東京開催）

北欧における性教育

スウェーデンとフィンランドに学ぶ、
知的障害児者への性の教育と支援・専門家養成

内　容　今回の関西性教育研修セミナーのテーマは「北欧に性教育に学ぶ」の第２弾！

第１部（13：00 〜 14：00）
「フィンランド・スタディツアー報告」
野坂祐子（大阪大学）、吉田博美（駒澤大学）、ティーナ・ヴィルポネン（セクスポ財団）
第２部（14：00 〜 16：00）
「スウェーデンにおける知的障害児者への性教育・支援」
シャーロッタ・ローフグレン - モーテンソン（マルメ大学）
第３部（16：00 〜 17：00）
「意見交流会」司会・土肥いつき（セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク）

会　場　日本性教育協会（JASE）会議室（東京都文京区小石川 2-3-23　春日尚学ビル B1）

参加費・問合せ先等

参加費：3,000 円（通訳付）、定員 30 名（事前予約優先）　**主　催**：関西性教育研修セミナー実行委員会　　**協　賛**：日本性教育協会
問合せ先・申込先：E-mail　kansaishy@gmail.com（参加希望者は①氏名、②所属、③連絡先を添えて、メールで申し込みください。手話通訳など、情報保障の必要な方は、その旨を 10 月 8 日までにご連絡ください。）

10月6日（金）～7日（土）

第58回日本母性衛生学会総会・学術集会
予知予防と心の支え

主な内容

6日　会長講演「母子感染を予防しよう」山田秀人（神戸大学大学院医学研究科産科婦人科分野）
シンポジウム「子育て女性のメンタルヘルスを守れ！」ほか。

7日　招聘講演「近代化のなかの出産と女性―明治大正期のメディアにみる『母性』」佐伯順子（同志社大学大学院社会学研究科）ほか。

会　場　神戸国際会議、神戸国際展示場２号館
（神戸市中央区港島中町）

問い合わせ等

参加費／当日参加登録：会員12,000円　非会員15,000円（学生5,000円）
問合せ先／学術集会運営事務局：（株）日本旅行国際事業本部ECP営業部　TEL03-5402-6401　FAX03-3437-3944
E-mail：jsmh_2016@nta.co.jp
学会事務局：公益社団法人日本母性衛生学会
TEL03-3820-2117　FAX03-3820-2118
E-mail：other@bosei-eisei.org

10月25日（水）～27日（金）

平成29年度　健やか親子21全国大会
（母子保健家族計画全国大会）
日本の“ひなた”から親子を笑顔に

主な内容

25日　母子保健関係者研究集会「子どものパーソナリティ発達と環境」ほか。

26日　特別講演「すべての親子にハピネスを～私たちがすべきこと～」福島文二郎（JSパートナー代表取締役）ほか。

27日　基調講演「思春期からの生涯を通じた女性の健康支援～健やかな妊娠・出産のために～」谷口久枝（やぐちレディースクリニック院長）、パネルディスカッション、ほか。

会　場　メディキット県民文化センター
（宮崎市船塚3-210）

主催・問い合わせ等

主　催／厚生労働省、宮崎県、宮崎市、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会、一般社団法人日本家族計画協会、公益社団法人母子保健推進会議
問合せ先／平成29年度健やか親子21全国大会実行委員会事務局
（宮崎県福祉保健部健康増進課内）
TEL 0985-44-2621

第27回関東甲信越静性教育研究大会
基本テーマ「情報化社会における性教育の今日的課題」

【期　日】 2017年11月25日（土）9：30～16：30（受付開始9：00）
【場　所】 東京都立晴海総合高等学校　講堂（東京都中央区晴海1-2-1）
【主　催】 全国性教育研究団体連絡協議会、関東甲信越静性教育研究団体連絡協議会、東京都性教育研究会
【協　賛】 日本性教育協会
【内　容】（1）基調講演「性に関わる指導の今日的課題」（仮題）国立教育政策研究所教育課程調査官
記念講演「性に関わるトラブルから見た現代社会の性意識」（仮題）出口保行（東京未来大学教授）
（2）分 科 会　第1分科会「小学校における性教育の実践」、第2分科会「中学校における性教育の実践」、第3分科会「高等学校における性教育の実践」、第4分科会「特別支援教育における性教育の実践」、第5分科会「性情報の指導の実践と講座」
【参加対象者】 教職員（保・幼・小・中・高・特別支援学校・専門学校・大学）、医師・看護関係者（医師・保健師・助産師・看護師）、地域医療・保険関係者、社会教育・青少年健全育成関係者、カウンセラー、相談員、福祉関係者、保護者、学生、その他人間の性・性教育に関心のある方
【定員・参加費】 200名　一般2,000円（学生は1,000円）
【申し込み方法】 郵便振り込み。　締め切り：10月27日（金）
【問い合わせ】〈事務局〉都立稔ケ丘高等学校・井谷　享　FAX03-3926-7523　E-mail：Tooru_itani@education.metro.tokyo.jp

最新刊
好評発売中！

関西性教育研修セミナー 10 周年記念誌

「性について、語る、学ぶ、考える」

昨今は、性教育・性科学の世界にも新しい風が吹きつつある。性教育をめぐる５W １H（誰が、何を、誰に、いつ、どこで、どのように教えるのか）には、異なる価値観の対立が伴うがゆえに、時として激しいバッシングに見舞われることもある。同時代を生きる古い仲間や新しい仲間とのつながりを大切にしつつ、性教育を次世代につなぐために自分たちにできることとは何かを常に問い続けてゆきたい。

本書は、関西性教育研修セミナーの 10 年間の取り組みをまとめるとともに、セミナー登壇者の何人かにお願いし、現在の性の課題と今後の展望について執筆いただいた。さまざまな現場や経験に基づくバリエーションある報告は、まさに性の幅広い側面を示している。

- **編集／関西性教育研修セミナー実行委員会**
- **発行／日本性教育協会**
- **A4 判・ソフトカバー　128 頁**
- **頒価 800 円**

主な目次

性暴力
　教育現場における性暴力被害への支援と課題／野坂祐子
　性暴力の「理解」と「治療教育」を求めて／藤岡淳子
　規定される性、聞こえない声。／岡田実穂
　資料
HIV ／ AIDS
　記者から見たエイズ対策／宮田一雄
　「ちいさな学校」の経験／ブブ・ド・ラ・マドレーヌ
　HIV ／エイズについての医療現場からのメッセージ／白野倫徳
　HIV と性の健康／生島　嗣
　資料
性の多様性
　「語る」社会か「語らなくていい」社会か／土肥いつき
　性別違和と子どもたち／康　純
　「性」について考えること：西から東、そして北東北へ／宇佐美翔子
　「性の多様性」と共生する社会に向けて／東　優子
　資料
性教育
　30 年の性教育の実践／秋山繁治
　知的障がいのある生徒への性の指導と支援／池川典子
　LGBT を排除しない性教育のあり方／東　優子
　資料
性と社会
　社会は性に蓋をかぶせる／池上千寿子
　「死にたいと思いつつも、助けてほしい」／渋井哲也
　二人の性科学者と Nature vs. Nurture 論争／東　優子
　性科学／教育の過去・現在・未来／ミルトン・ダイアモンド
　資料

◆本書は JASE ホームページ http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html からお申し込みいただけます。
　または、Email　info_jase@faje.or.jp　　TEL 03-6801-9307　FAX 03-5800-0478 までお申し込みください。